

屋島 談古嶺（だんこれい）

談古嶺展望所からは、1185年にライバル関係にあった武家の平氏と源氏の戦いの戦場になった入り江である、壇ノ浦を一望できます。「談古嶺」という言葉は「人々が昔のことを語り合う尾根」の意味で、1897年にこの尾根を訪れた尼僧が命名したもので、屋島の戦いを偲んでのことといわれています。談古嶺から壇ノ浦を見渡すと、この有名な合戦についての物語に登場する場所をいくつか認めることができます。都である京都を源氏に奪われた後に平氏が同行を強いた幼帝、安徳天皇（1178－1185年）の行宮跡、源氏の射手が神仏の加護を祈ったといわれる祈り岩、実際に来ることはなかったが、源氏の水軍が攻めてくると予想して平氏が自陣の船を隠した小さな入江である船かくしなどです。壇ノ浦の向かいには、かつては5つの鋭峰があった標高375メートルの五剣山（字義どおりには「5本の剣の山」）があります。この剣のような目玉スポットは、1707年の地震で崩壊し、山頂のとんがり感が多少失われました。